

# 関東都市学会ニュース 2026年2月号

(2025-4号)

発行 関東都市学会

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町1300

高崎経済大学 地域政策学部 米本清研究室内

<E-mail> 省略

<http://www.kanto-toshigakkai.com>

「関東都市学会」郵便振替：00130-9-33044、三菱UFJ銀行麹町中央支店普通口座 0201604

2025年度の関東都市学会第2回研究例会を対面とZOOMによるオンラインのハイブリッド形式で開催いたします。会員の皆様には、3月12日(木)までにご参加申込をいただき(対面参加とオンライン参加いずれの場合でも)、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

全会員宛てに、3月8日(日)までにメールでオンライン参加に必要なIDとパスワードをお送りいたします。学会に登録されているメールが無効である場合はメールが届かない可能性があります。メールが届かなかった場合(学会にメールアドレスを未登録の場合を含む)は、事務局([info@kanto-toshigakkai.com](mailto:info@kanto-toshigakkai.com))まで、有効なメールアドレスをご連絡ください。また、研究例会に先立って各委員会・理事会を開催いたします。

**↓研究例会および委員会・理事会へのご参加申込はこちらからお願いいたします↓**



または <https://forms.gle/HdQQaR5SdT63LBSi6> にアクセス  
QRコードでのお申込ができない場合は、事務局([info@kanto-toshigakkai.com](mailto:info@kanto-toshigakkai.com))へ  
対面とオンラインいずれで参加されるかをメールにてお知らせください。

## 関東都市学会 2025年度第2回研究例会

**開催日時** : 2026年3月15日(日) 15:00~17:45

**開催場所** : 【対面】日本大学文理学部 本館4階 学生実習室(大)1

【オンライン】ZOOM ミーティング

**【報告】** 『型焼菓子』にみる都市の食文化形成の特性に関する考察  
—東京におけるたい焼きの普及史を事例として—

宮本 匡 (法政大学大学院)

**【研究活動委員会 ラウンドテーブル企画「都市をめぐる研究・教育・実践のいま」第6回】**

話題提供: 「なぜ、移住者の語りに惹かれるのか—沖縄と秩父での移住研究をふり返る—」

畑山 直子 (大正大学)

司 会: 野坂 真 (青森公立大学)

## 関東都市学会理事会・各委員会開催のご案内

2026年3月15日(日)

※対面(日本大学文理学部 本館4階 学生実習室(大)1)とZOOMのハイブリッド形式

**【編集委員会】** 10:00~11:00

**【研究活動委員会】** 11:00~12:15

**【理事会】** 12:45~14:45 議題: 春季大会について、秋季大会について 他

\*理事・委員の先生方へ: 理事会および各委員会で配布されたい資料は、事前にそれぞれのメーリングリストと事務局メールアドレスにお送りいただけますようお願いいたします。

**【3月15日開催研究例会の会場について】**

会 場：日本大学文理学部 本館 4階 学生実習室（大）1  
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

アクセス：下高井戸駅（最も分かりやすい道順） 日大通りをまっすぐ 8分 650m

桜上水駅 南口から（途中に近道の看板があります） 9分 750m

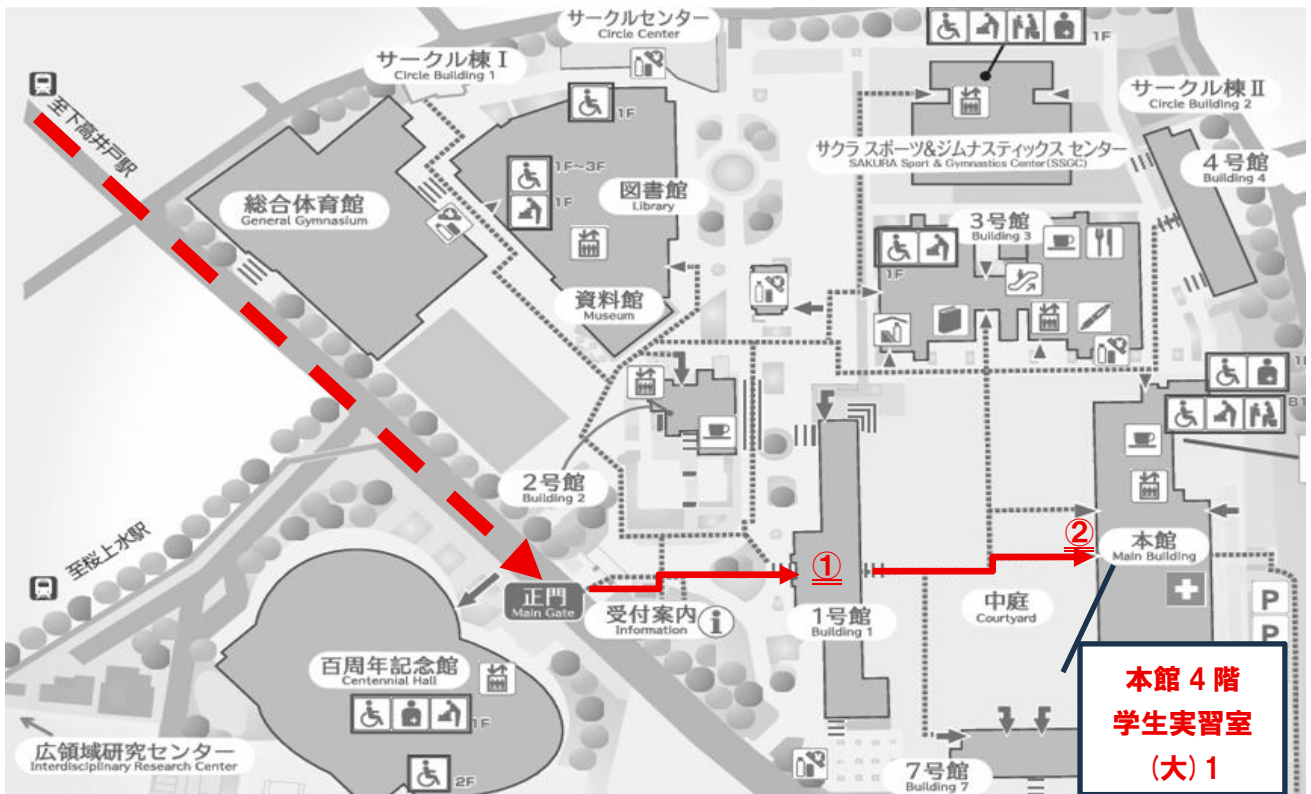
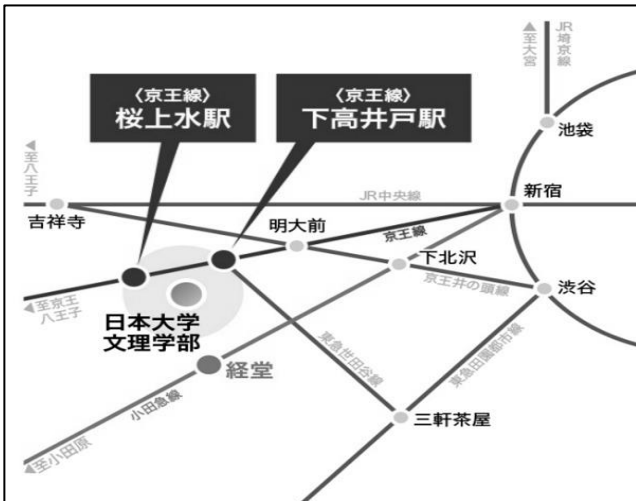
経堂駅 北口から（途中、分かりにくい箇所があるので、時間に余裕をもって下さい。） 1.6km

\*詳細は日本大学文理学部 HP「アクセス」 (<https://chs.nihon-u.ac.jp/about/access/>) を参照。

備 考：日曜開催のためキャンパス内の食堂等は休業日です。

特に理事・委員の先生方は昼食をご持参くださいますようお願いいたします。

<会場周辺地図：日本大学文理学部 HP「アクセス」「キャンパスマップ」等をもとに作成>



\* 正門受付を經由し、1号館の中を潜り抜けたのち①本館へ②、本館内のエレベーターで4階までお上がり下さい。

## お知らせ・募集

### 【2026 年度関東都市学会春季大会の予告】

2026 年度関東都市学会春季大会を、「『地方』への移住から都市の意味を問い直す—東京圏ネイティブのライフコースと教育に着目して—」を仮テーマとして、5月31日（日）に成城大学にて開催いたします。是非スケジュールをお空けいただき、ご参加ください。対面と ZOOM のハイブリッド形式での開催を予定しております。

### 【2026 年度関東都市学会春季大会の自由報告募集】

5月31日（日）の春季大会における自由報告を募集します。報告を希望する方は、「報告タイトル」「報告内容の概要（300字前後）」「報告者氏名及び所属・連絡先」を明記の上、3月6日（金）（締切厳守）までに関東都市学会事務局必着にてご応募ください。応募は電子メールによるものとします。当日はハイブリッド形式で開催しますが、報告者は対面にてご参加いただきます。春季大会で自由報告を行うと、報告内容を関東都市学会年報または日本都市学会年報に論文として投稿することができます。2026年度の投稿締め切りは、関東都市学会年報の「自由投稿論文」（査読付）が2026年6月末、日本都市学会年報の「審査論文」が2026年11月末です。なお、いずれも日程は予定ですので、詳しくはWebサイト・今後の会報等で各自ご確認ください。また、論文発行時に39歳以下の場合、日本都市学会年報または関東都市学会年報に掲載された論文（単著、あるいはファーストオーサーの共著）は、日本都市学会論文賞の選考対象となります。ふるって春季大会自由報告にご応募ください。

### 【関東都市学会年報について】

関東都市学会年報第27号の発刊は2026年4月を予定しております。できるだけ早く会員各位のお手元にお届けできるよう、作業を進めております。いましばらく、お待ち願います。また、2024年5月の総会にて承認されました通り、第26号より本年報は、紙媒体での発行・送付はなく電子媒体のみでの発行・公開（会員メーリングリスト宛てでの pdf ファイル送付および J-STAGE への掲載）となります。

### 【2026 年度 日本都市学会賞推薦候補図書募集】

日本都市学会では、毎年大会時に日本都市学会賞（奥井記念賞）を選定しておりますが、その選定にあたり各地方都市学会から候補作品（最大3点まで）を推薦することになっています。関東都市学会として2026年度の日本都市学会賞候補作としてふさわしい推薦図書を選定するにあたり、会員から次の要領で推薦を公募し（自薦・他薦を問いません）、それを踏まえて選考作業を理事会内で行うことにいたします。

#### （1）候補作品の対象

2024年1月1日～2025年12月31日（奥付記載日）に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等

※ 日本都市学会賞（奥井記念賞）の推薦要件については、日本都市学会ホームページ <http://www.toshigaku.org/>を参照。

#### （2）推薦書類等提出物

推薦文（400字程度）及び該当図書2冊（審査後必要であれば返却）

（審議のうえ審査対象になる場合、7部（献本）が必要になります）。

#### （3）締切

2026年2月26日（木）必着

#### (4) 提出先

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300

高崎経済大学 地域政策学部 米本清研究室内 関東都市学会事務局 宛

日本都市学会賞には特別賞（外国語著作賞、学術共同研究賞、まちづくり賞）の部門もあります。学術共同研究賞およびまちづくり賞については、2023年1月1日から2025年12月31日の3年間に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等が対象です。こちらについても情報をお持ちの方は事務局までお寄せください（書式自由）。なお、外国語著作賞については、今回から募集時期が早まり、既にメールにてご連絡している通り9月末で締め切りました。

#### 【2025年度会費未納の方へのお願い】

2025年度の関東都市学会会費をまだ納めておられない方は、是非2026年2月27日（金）までにお納めいただくようお願いいたします。なお、2年度以上にわたって会費を滞納された方は、関東都市学会から日本都市学会本部に向けて提出する「年度ごとの会員申告名簿」から自動的に削除され、日本都市学会年報及び日本都市学会ニュース等が届かなくなるといった支障が生じます。原則4年度以上にわたって会費を滞納された方に対しては、除籍の措置をとらせていただいております。このような点もご考慮いただき、過年度分会費の納入にご協力くださいますようお願いいたします。会費支払と会員資格（関東都市学会及び日本都市学会）に関してのお問合せは、関東都市学会事務局まで文書あるいはE-mailをお願いいたします。

#### 【『関東都市学会年報』バックナンバーを無償で配布します（会員限定）】

学術誌のオンラインデータベース「J-STAGE」へ、『関東都市学会年報』第24～25号に収録された論文・記事の電子版（pdfファイル）が新たに掲載され、どなたでもダウンロード可能となりました。それに伴い、『関東都市学会年報』の一部のバックナンバー（第24～25号）を、希望される会員に無償で配布させていただくことになりました。配布を希望される方は、下記のとおり必要事項をお書きのうえ事務局へメールにてお申込みください。

申込先：関東都市学会事務局

必要事項：希望する号数、冊数、送付先（宛名、住所、電話番号）

受付期間：2026年3月31日（火）まで

備考：着払いでお送りしますので、送料は申込者においてご負担ください。また、配布冊数の上限に達した号はお送りできません。その場合は、お申込みいただいた時点でお伝え致します。なお、お申込みいただける冊数は原則1冊です。やむをえず複数部必要な場合はその旨と理由もお書きください。

#### 【学会ホームページにおける「お知らせ」欄への記事掲載について】

ホームページのトップページ等で掲載される「お知らせ欄」では、会員から提供された情報を掲載し、会員相互のコミュニケーション充実を図っています。以下のような内容の記事につきまして周知を希望される場合は、掲載文を作成し関東都市学会事務局（info@kanto-toshigakkai.com）までお送りください：

求人や公募、シンポジウム（学内・他学会・自治体によるものなど）などに関する情報

※なお、「お知らせ」欄は写真も掲載できる体裁となっています。

## 2025年度第3回理事会報告

2025年1月12日に、オンライン開催された2025年度第3回理事会の主な議事内容は以下の通りです。

### 1. 3月の研究例会について

- ・ 2025年3月15日（日）に対面とオンラインのハイブリッド方式で開催することを確認した。また、自由報告とラウンドテーブルを開催することが承認された。

### 2. 2026年度の大会および研究例会について

- ・ 春季大会については、2026年5月31日（日）を第一候補とし、成城大学を開催候補地として開催することが承認された。大会テーマ、当日のスケジュール案および登壇者候補についても検討し、詳細については研究委員会にて議論し確定させることが承認された。
- ・ 秋季大会については、歴史・文化財などをテーマとし、鎌倉市での開催を検討していく方向性が示され、承認された。
- ・ 例会については、自由報告に加えてラウンドテーブルの企画も継続することが確認された。

### 3. 研究活動委員会から

- ・ 松橋委員長より、今後の大会および例会について、上記の通り検討および確認がされた。

### 4. 編集委員会から

- ・ 畑山副委員長より、年報第27号の編集状況・方針、J-stageの25・26号のファイル不具合への対応、年報28号の原稿依頼につき説明があった。

### 5. 日本都市学会担当理事から

- ・ 西野会務担当理事および土居会長より、年報58号の編集状況、関東での年報事務局担当の件、直近10年程度のバックナンバーのJ-stageへの掲載予定などにつき説明があった。

### 6. 日本都市学会賞推薦図書について

- ・ 事務局長より、日本都市学会特別賞（外国語著作賞）について、昨年9月末が締切であったが、とくに推薦すべき対象がなかったとの説明があった。

### 6. 事務局より

#### (1) 会員の異動

- ・ 上記の通り、入会（2025年1月12日承認分）および退会について承認された。

#### (2) 2025年度日本都市学会賞・学術共同研究賞・まちづくり賞の推薦について

- ・ 2月26日が締切のため、引き続き推薦を募集することが承認された。

## 関東都市学会 2025年度秋季大会（2025.12.7）の記録

### 秋季大会 印象記

宝田 惇史（地域・交通ライター／進学塾講師）

2025年12月7日（日曜日）、甲府市で関東都市学会秋季大会が、無事に開催された。天候が心配だったが、幸い大会集合時間を待っていたかのように回復し、エクスカージョンは比較的歩きやすい天候のもとで行うことができた。

私は、甲府市には何度か行ったことがあり、実は大会開催の約1ヶ月前にも山梨県立博物館の企画展見学のために訪問していた。それでも、知らない場所や気付いていなかった要素が多数あり、大変良い学びの機会をいただいた。

甲府駅に集合した後、まずは案内をしていただきながら北口へ向かった。駅前の再開発が進んでいる様子を、じっくり見学することができた。特に、2013年に、甲府駅北口に整備された「甲州夢小路」と、2025年4月に南口に開業した「小江戸甲府花小路」について、重点的に説明を受けた。甲府市は「小江戸甲府城下町整備プラン」を策定し、甲府城と中心市街地の商店街の間を回遊しやすくすることを目指しているという。そのため、甲府税務署および山梨県社会福祉会館の跡地を甲府市が取得し、再整備したのが「小江戸甲府花小路」である。

商業施設の運営管理は、宝石装飾業の「タンザワ」が行なっているという。江戸時代の甲府城城下町の雰囲気再現した、観光客向けの商業施設である。複数の飲食店などが出店するとともに、「こうふ亀屋座」（歴史交流文化施設）も隣接して開業し、これから賑わいを創出しようとしていることが感じられた。

前に述べた通り筆者は何度か甲府市に行ったことがあるが、恥ずかしながら「甲州夢小路」の存在に全く気付いていなかった。駅を降りても目の前に見える場所ではなく、JRの線路沿いのあまり目立たない場所にある。非常にもったいない施設だと感じた。

中心市街地でも、「岡島」（百貨店）の跡地などの再開発が進められているが、公共施設やマンション、ビジネスホテルが増加し、商業施設の縮小・撤退がなかなか止まらない状態になっている。日常生活に便利な街ではなくなりつつあるのではないかという点が、とても気になった。

中心市街地を10分ほど歩いていくと、研究発表・ディスカッションの会場である「やまなし地域づくり交流センター」に到着した。こちらも、完成してから間もない施設のようで、大変立派な場所だった。

発表は、山梨総合研究所と甲府市役所の方々が、詳細に甲府市の現状と将来計画をご報告くださった。報告の後には、参加者によるグループ・ディスカッションとその成果の発表となった。筆者が参加したグループでは、甲府市の現状や将来計画について、「公共交通の話があまり出てこないのはなぜか」といった様々な意見が出された。こういう意見が参加者から出るのは、各地域のフィールド研究を大切にする会員が多い本学会の特徴だろうと感じた。

今回は、山梨総合研究所の高い調査能力と、甲府市役所若手職員の情熱を強く感じることができ、筆者も大きな勇気を頂いた。地域に密着したシンクタンクの価値を、とても強く感じた。甲府市は、個人的にも引き続き注目していきたい街である。今回の大会開催にご尽力くださった皆様に、この場をお借りして、心から感謝申し上げたい。